

# 市民自らの政策を持とう！

## 第5回個人演説会

### 太平洋戦争を謙虚に反省し、平和憲法を守ろう

岡田久男（元中学校教師）

日時 2013年7月13日（土）

13:45-17:00

会場 岩国市福祉会館

参加者 8名

#### 人物紹介

岡田久男（おかだ ひさお）

1934年玖珂郡錦町に生まれる。中央大学法学部卒業。岩国地区の中学校で教鞭をとった。退職後、岩国地区の農業委員を12年、広域合併協議会の委員もつとめた。空母艦載機移駐問題がおこると、岩国市の住民投票に協力、2007年12月の「一万人集会 in 岩国」の代表となった。「市民政草の根」会員。



#### 1. 軍国主義教育

私が生まれたのは1934年です。その3年前に5.15事件、満洲事変がありました。リットン調査団がきて、日本が故意に爆発させた、爆発させたといってもすぐ後に列車が通っているわけですから、あかうそを言って始めたわけですね。それがきっかけで国際連盟を脱退します。そのころに私は生まれました。

昭和9年ですが、そういう軍国主義の動きがあるなかで私たちは成長しました。そして昭和12年に日中戦争がはじまり、満洲国という傀儡政権をつくりました。皆さんご存知だとおもいますが、愛親覚羅慧生さんとか、溥儀さんとかの傀儡政権をたて

たのです。私が5歳のときに政府が南進政策というのを決定し、日本に石油資源がないので、南方のスマトラとかボルネオをとって、石油資源を獲保しようとしたねらいだったのです。町の方では隣組とか町内会を結成させ、隣同士の結束と監視、やがて国民総動員法ができるのですが、そういう準備をすすめております。

1941年4月に私は国民学校1年、それまでは小学校と呼んでいたのを、私が1年になった時から国民学校と言うようになりました。児童でなく私たちは少国民といいました。いろはかるたというのがあり、それまでは私はイヌボウカルタというので、イヌモアルケバボウニアタル、というのでカタカナを覚えたのですが、私が1年

になったときは、新しくイロハカルタができて、よく内容を覚えていませんが、「レ」というので「練成で伸びる少国民」という読み札と取札がある。「練成」というのは小学生にはわからなかったのですが、訓練してきたえるということだったのでしょう。姉たちがならった教科書は「さいたさいたさくらがさいた」「あかいあかいあさひあさひ」というのが第1課でした。ところが私が小学校にはいると、カタカナですが「ススメススヘイタイススメ」、こういう教科書でした。

## 2. 甲（かぶと）島から真珠湾へ

東条内閣が10月18日に成立した。私たちは知りませんでした。11月中旬に岩国の甲島に連合艦隊が集結したのです。私が中学校教員になって8年ぐらいて、河山小学校へいくと、周南市の教育長をされました友森孝通という先生がいました。岩国の国病の沖にかぶと島というのがありますが、昭和16年11月中旬に、そこへ連合艦隊結集せよという達しがあった。そのとき友森先生は青年教師で、小学校の先生になったばかりなのに召集をうけて、通信兵になった。これが一番はじめに訓練するのにやさしいそうです。ツートンツートンという、信号を送るやつですね。

友森先生は戦艦伊勢にのって甲島の沖にきた。ものすごく軍艦が沢山きている。加賀、赤城、戦艦には長門、武蔵、巡洋艦には最上、北上などがいました。それが燃料満載できている。大がかりな演習があると思って、友森先生は夜中に床についた。すると11月18日の深夜に、錨をまき上げる音がきこえた。いよいよ本艦が動いて出航するということです。いよいよ演習にでるのか、と思っていたら、夜が明けたら四国の沖へ出ていた。四国がみえなくなると

きに、甲板に全員が集合した。時の伊勢の艦長が、「今われわれはハワイに向かってる。諸君の命は艦長の私があずかる」と言った。これは演習ではなく、アメリカへ向かっているのだ、とその時はじめてわかった。

その時岩国のあそこに基地がある。日ロ戦争当時からある。そこへ山本五十六が単身で極秘で来た。そこに久義萬という旅館があった。この久義萬に主だった艦長をあつめて、最後の作戦会議をやって送り出した。山本五十六は東京へ帰った。その時の写真、岩国駅にぽつんとすわっていた山本五十六の写真があったのをみたことがあるんですよ。

あとはみなさんご存知のとおり、12月8日の未明、真珠湾攻撃をやります。その1時間前にもうマレー半島に上陸している。そして1月にはマニラを占領した。5月7日にフィリピン軍が降伏し、日本がフィリピンを占領した。そのとき私の一番上の姉のイソノというののいるのですが、その姉婿の中村清が、特殊部隊にはいって、戦死しました。姉は28歳、その息子は2歳半でした。

## 3. 「海行かば」

そしてとうとう、日本とアメリカが戦争をはじめます。その年の、これは友森先生のお話なんです。昭和17年6月に、ミッドウェイで敗退しております。ミッドウェイには米軍の飛行場があり、そこへ日本の連合艦隊が行って爆撃したのです。日本の空母から500機の爆撃機がたった、向こうの米軍からも500機飛び立って、どこかですれちがったけれども、どこですれちがったか分からなかった。太平洋というのは広いということを知森先生ははじめて理解したそうです。

ミッドウェイの基地をさんざん爆撃して、壊して帰ってみたら、空母が4隻沈んでいる。帰って来た飛行機は降りる場所がない。全部太平洋の海の上に降りた。友森先生たちは戦艦ですから、救命ボートで500機のパイロットたちを救いあげなければならない。順番があって、一番先に出るのはパイロット、まずパイロットを救い上げる。二番目にすくいあげるのは機銃掃射をやる機関兵、一番最後はトンツウ・トンツウの通信兵です。

ところが通信士を救い上げる頃になると、飛行機がもう半分以上も沈んで、胸から上しか水上に出ていない。友森先生は学校の先生ですから、若い兵士を救いたいから、機関兵をあげるときに「君も乗りなさい、もう沈むよ」と言ってひっぱりあげますが、「いえ、私はあとです」といってきかない。「上官が先です」という。500人の青年通信兵が飛行機に一人ずつ残っている。折から夕陽がしずむ。夕陽に浮かんだ飛行機が次々と沈んでいく。彼らは一斉に「海行かば」を歌う。「海行かば 水づく屍、山行かば 草むす屍・・・」という歌を歌いながら、南洋の海に沈んでいった。これで飛行機500機を失い、南太平洋作戦は中止になったそうです。

翌年昭和18年4月18日、山本五十六連合艦隊司令長官は現地視察にいて、ブーゲンビル島の上で敵機にうたれて死にます。そのあと古賀峯一という司令官も、1年後にパラオ、ミンダナオへ行く途中で戦死します。古賀峯一に同行していた福富繁は機密文書を盗まれてしまいます。南方でのゲリラ戦は中止になるそうです。19年の6月24日大本営がサイパン島を放棄します。ハワイに行った南雲忠一中将とサイパン守備隊長斉藤義次が玉砕し、6万人の日

本人が見捨てられました。

サイパンが陥ちたら、やがて日本本土へB29が飛んでくる。そして10月24日、レイテ沖で、取られたフィリッピンを挽回しようとして機動作戦をするわけですが、日本軍は大敗します。そして長門と同型船であった武蔵が沈没してしまいます。そういうことで日本は沖縄を守ることができなくなった。

#### 4. 学童疎開

都会では学童疎開が始まり、縁故疎開のないものは集団疎開しました。沖縄から九州へ向かって集団疎開していた対馬丸の子供500人が対馬丸の沈没で死にました。

丁度私は深川の国民学校にいました。そう津峡温泉のちょっと手前です。4年生の終わりに大阪から川口隆君という少年が疎開してきました。何故疎開してくるのか、どう対応していいのか、先生方は話してくれなかった。何かいざこざがあったらしく、こういうわけであるのだから仲良くしてということで、隆君がきた。大阪弁というのをはじめてきいた。教科書を読むアクセントで面白いものと思った。森兼みえさんというのが疎開してきた。アイドル的な感じで、男子に人気があった。それから東京から神代すみこさんがきた。神代さんは正義感が強く、意見が対立してちょっと険悪なムードもでた。そういうことがありました。

やがて昭和20年2月14日に、近衛首相が天皇へ、敗戦は必至だと上奏している。しかしそれに対する対策は何もなく、戦争は進みます。2月19日に硫黄島が全滅します。気温40-50度のなかで戦っていた。全滅して、今12,000体ぐらいの遺骨が硫黄島に残っています。

3月10日に東京大空襲があります。こ

れは皇居だけは攻撃しないで、周囲を全部焼夷弾で焼きつくして、逃げ場をなくして、あとは爆弾を落として、10万人以上の方が死んでいます。

わたくしの友達でも千葉へ集団疎開していたのですが、お姉さんは3月10日に帰った時、上級学校の受験のために墨田区で、妹の自分はお寺に集団疎開していた。お姉さんは3月10日に東京へ帰ったばかりに、一家5人が命を失いました。お父さんは長靴をはいていたことでわかり、お母さんや妹たちは着ていた着物でこれが誰だということがわかったそうです。しかし私の友達の女の子はそのことはだいぶあとで知るわけです。転々と方々へいき、やがてその子は広瀬へやってきて、私は高等学校のときその女の子と知り合いになり、今岩国にその人は住んでいます。4月10日が大阪、5月10日が名古屋、というふうに大空襲になっていきました。

### 5. 松脂（まつやに）採集

4月から8月、松やに採集がはじまるわけですが、松根油工場というのが作られる。12月ごろから冬場におじさんたちがまず松の根を掘り、これは赤松の根っこです。外側がぼろぼろにくさって、中の芯に油脂があって、昔はそれを割ってたいまつを作って懐中電灯のかわりにしていたらしい。松の根っこには油があるということで、政府の命令でしょう、私の父親たちが山から松の根っこをとって、道路のそばまで出して瓦礫の山をつくる。その根っこを運ぶのが小学生の私達でした。松根油工場というのがあちこちにある、そこで重油をつくる。8月終戦まであちこちでドラムかんをみたことがある。

4月から松やに採集するので、竹の筒を下にうけるのですよ。竹の筒を受けるので、

受ける容器を作る。私の集落で、えいこさん、山田のさっちゃん和男の子1人で100個の筒をつくる。女の子は鋸をつかったことがないから、当然私ひとりが作ることになる。父親の大きい鋸でやったら早くできるとよろこんでいたら、ぱっと刃がとんで、左の人差し指の第二関節の上の骨を削った。いまだにここに傷がある。さっちゃん、えいこさんはここに穴をあける。きりで穴をあけるのをやってくださいと言ったら、割れたとかいって、結局切るのも穴をあけるのも私がやった。七輪で火箸を焼いて、焼け火箸で釘でとめる穴を作る。夕方まで暗になるまで100個作った。私が帰るまで両親は夕食をたべないで待っていてくれた。

松やに採りの木は赤松の直径50cmぐらいの幹ですから、皮が厚い。大人が厚さ1-2cmぐらいにけずっている。それで大人が最初見本をつくっているわけです。そこへ私達が行って、1日に1本ずつ鋸で線を入れて、みぞかきというのでノコズをはらって、それを男の子がやり。女の子がちいさい竹べらでヤニをバケツにとる。よく出る木で1昼夜で3-4センチくらい。あとは一昼夜やっても1-2センチあたり、白くかたまったりしたのを、女の子が苦勞して入れるわけです。その頃転校してきた女の子をいれて、男子13名、女子8名しかいない。男子が鋸でするあいだ、女の子がへらでやる。男の子と女の子がペアで森の中を歩くのです。私は女の子と一緒にやりたかったが、一度も一緒にやれなかった。5人は男の子同士でやらなければならないのです。私は4月から8月までやったが、1度も女の子とペアになれなかったのを覚えています。

朝学校まで3キロ、学校から山へ、雙津

峡の上の水無尾峠という、学校から山へ着くのは9時ぐらい、9時から11時まで1ヘクタールぐらい、男の子と女の子とペアでとって歩くのです。18リッターの缶がありますが、あれに入れて山道を帰るのです。男の子がかつぐ、女の子が道具をタオルで巻いて帰る。そういうのが8月まで続きました。

4月から6月まで、沖縄戦がはじまっていて、沖縄では、しまいには4人に1人が亡くなった。摩文丘でひめゆり部隊が自決したというのがありました。このあいだ沖縄の戦没者の記念式典で、名前はわすれましたが、あるおばちゃんが、先月孫の結婚式があって、孫の男の子が、おばあちゃんがひめゆり部隊だったのに、自決しないで血筋をのこしてくれた、だから私は今日、えい子さんと結婚できる、と式場でいった。それまでおばあちゃんは、自分だけが生き残ったことをずっと責め続けていたが、孫が結婚してそのようにいつてくれたので、やっと救われた思いがしたというのをテレビでやっていました。

沖縄が6月23日、アメリカの領土になった。佐藤栄作さんが交渉して返すまで、沖縄は外国だった。だから沖縄へ小包を送るとき、外国郵便で送らねばならなかったんですよ。

## 6. 岩国空襲

20年3月から8月14日まで、岩国は9回爆撃を受けました。一番ひどかったのは陸軍燃料廠、それから春子16歳とある、春子が帝人製機で学徒動員ではたらいていました。春子の話によると、空襲がはげしくなると、警戒警報がきたらすぐ作っている製品をかたづけて、保存しておいて、それから逃げ出した。ところが間にあわなかったのでしょう、部品をかたづけて出て

見たら、爆弾がどんどん落ちて、岩国ですよ、そこの蓮田におちて、防空壕までいけないから、友達とふたりで蓮田にとびこんだ。ピューという音がして。「今度は自分たちの上かしら」と友達と手を取りあって、ハスの葉のかげで友達と手を握って耐えていた。そしたら蓮の葉の陰にかくれていた女の子が、「春ちゃんいいかね、このハスの花は極楽の花だから、もし爆弾がおちてもわたち2人は極楽へいけるのよ」と言った。それをききながら、2-3時間か、ながい間耐えていたと話していました。

その頃に私の両親は柴刈りに行くんです。雙津峡温泉から西のほうにあがると、大将陳、城将山があり、その向こう側は島根県です。昔は山の上を草刈りして、草を牛にくわせたり、田んぼにいれたり、草刈りをしていた。火防線というのがあって、幅3m、深さ2mぐらいの溝がある。秋吉台の山焼きが3月ぐらいですかね。だから最後には枯草を焼いておく、火がこないように、山口県、広島県にこないように火防線がずっと掘ってある。

わたくしたちはその釜になったところをみたことがある。それを見ていたら、多分沖縄の戦争が終わってきたのでしょう、B29の編隊が6機、10機と編隊を組んで頭のうえを通る。岩国の上空に行くとピカピカと光る。音は聞えない。そしたらやがて黒煙があがる。両親は、帝人製機にいる春子は大丈夫だろうかと気が気でない。草刈りから帰ってくるのは夕方5時から6時ころです。帰って母親は夕飯の支度をする、父親は牛を飼う。あるとき4時ころに帰ってきて、今日は山の上からみたら、岩国の方は黒煙がもうもうとあがって、春子だいじょうぶなんだろうか心配していました。

## 7. 広島原爆投下

やがて8月6日になると広島で原爆がありました。8時15分。細原という集落なんです、女性が盆前ですから「なぬか日」というのがあって、墓参りする人びとが町からも帰ってくるから、8月6日に道の草刈りをしたり草取りをしたり、8時に集合して、集落の草取りをやっていたとき、広島でピカドンがありました。私もそのとき母親たちと一緒にいたのですが、ピカと光ったのですが、ゴロゴロとか雷の音が聞こえない。「どうしたんじゃないか、かみなりがならん」と顔をみあわせていたら、うわさで広島へ新型爆弾が落ちたというニュースがやってきました。あとはご存知のとおりです。

広島は死体の山が沢山できた。この間、広島原爆体験をされた原美男さんという方が、小学校5-6年を対象に話をしにきました。広島で沢山の人が死んだので、その死骸をあつめて焼場へ運ぶのに、道路に死骸があるのを、友達と2-3人で力をあわせて、死骸をトラックのなかへほうり込んだ。今で思うと、亡くなった人をほうりなげるとするのはとても失礼なことで、いまの自分たちにはできない。でもあのときは人間の死体をほうり投げたりして、人間の心を失っていた。ひとつのロボットみたいに自分たちは機械になっていた、人間の心を失っていた、と訴えておられました。

8月8日になると、ソ連が満洲の方へ攻めてきて、満洲は大混乱します。9日には長崎へ原爆が落とされた。9万人の人がなくなった。そして10日、11日と御前会議をして、13日には終戦にしようと、これは昭和天皇が自分の独断で。国体護持だとか何だとか、がたがたいうものですから、最後は昭和天皇が聖断をもってポツダム宣

言を受諾するときめた。

ところが13日終戦ときめていたのに、国体護持の何のかのということで、とうとうアメリカは14日に岩国を爆撃しております。ここにありますが、室の木の森岡さんはそのときの写真をもっておられますが、ハチの巣状に岩国駅周辺は爆撃を受けている。そして751人の方がなくなった。そして午後は光の海軍工廠が爆撃されて、800人がなくなり、そのなかに岩国高校とか、私たちと2つ3つしか違わない年の人たちが命をおとしております。

## 8. 終戦

そして8月15日にラジオで終戦放送が流れました。私達は全然知りません、そんなことは。だから例のごとく松やにとりにいって、昼飯をたべて、川へ泳ぎにきました。中村清の家では父親が戦死しておりますから、お寺で終戦放送を聞きました。しかし私たちは「欲しがりません勝つまでは」「神州不滅必ず勝つ」ということで、負けるとは思っていませんから、お昼をたべたら、私と同級生の喜八郎さんと光人くんが細原川で泳いでいた。そしたら喜八郎くんのお父さんと山田の実さんと言う人が、日本が戦争に負けたということを川までしらせに来られました。私たちは川でキャキャ言って泳いでいたら、お前らこっちへ来い、といわれまして、何事かと思って行ったら、山田の実さんが「おまえら、日本は戦争に負けたでヨオ！」といわれました。みんなシーンとなって、どういうことじゃろうかと、一瞬ものをいわなかった。

そしたら喜八郎くんが、「僕らはどうなるん？」といいました。喜八郎くんのお父さんが、安心させるような言葉をいわれました。負けたら、集団自決をすとか玉砕すとかというのだから、男は皆殺される

とか聞いていましたから、しばらくどうなるか分からない。

### 9. 戦争犯罪人

こともなく時が流れて、やがて東京裁判がおこなわれ、そこに東条ほか6名死刑と  
かいてありますが、厳密には7名、名前を  
申しあげますと、

東条英機	総理大臣
板垣征四郎	支那派遣参謀総長
土肥原 賢	奉天特務機関長
松井石根	中支方面の軍司令官
木村兵太郎	ビルマ方面の軍司令官
武藤 章	陸軍省軍務局長
廣田弘毅	首相、外相

この7名が絞首刑、あと終身刑と有期懲役  
がいます。終身刑のなかには小磯国昭とか  
います。その中から、やがて岸信介とい  
う人が戦犯から外されて、アイゼンハワー  
のもとで、日米安保条約を結ぶわけです。  
この安保条約・日米地位協定が問題になっ  
て、オスプレイがやってきたり、沖縄の  
基地が反対したり。岩国も前は反対して  
いましたが、最近では反対の声が弱ま  
ったかのごとくニュースが流れています。

それから戦争に負けたわけですから、  
満洲から、南方から引き揚げて帰って  
来ます。興安丸というのが何回も舞鶴  
に引揚者を運びました。そしてその  
ときに「岸壁の母」という人が一所懸  
命息子の消息をたずねます。ラジオ  
では毎日「訪ね人」というのがあり  
ました。「もと慶尚南道の誰それ  
さんを、山口県の誰それさんが探  
しておられます」というような。

そのとき私たちは「鐘の鳴る丘」と  
いう放送劇がNHKのラジオから流  
れたのを聞きました。みなさんもご  
存知かと思いますが、「緑の丘の赤  
い屋根、とんがり帽の時計台  
・・・」。 焼け出された小

学校1年生から6年生ぐらいでし  
ょう。親をなくしたり親戚をなく  
したり、所謂戦災孤児を収容して  
おりました。菊田一夫さん作、  
古関裕而さんが音楽をやったり。

20年に終戦になり、21年に平和  
憲法ができます。このとき私たちが  
新制中学校1年生です。1年生に  
なったときに新しい憲法がで  
きます。昭和21年1月3日に  
草案が発表され、22年の5月3  
日に新憲法が実施されます。これ  
が現在の憲法です。その頃は教  
科書もなにもなくて、新聞紙の  
ようなものを切り開いて糸でと  
じたような教科書ももらって  
いただけですが、ただこの新  
憲法というのだけはパリッとし  
た教科書でした。そのなかに戦  
争放棄というのが書いてある。  
「国際紛争を解決する手段とし  
ては、戦争は一切放棄する」「陸  
海空軍その他の戦力は、これを  
保持しない」、これが第9条です。  
それから基本的人権の尊重、主  
権在民、それから言論・出版の  
自由、婦人参政権、婦人には参  
政権がなかった。それはなぜか  
というと、徴兵制に関係があ  
って、女性に参政権をあたえ  
ると徴兵制に反対するだろうと  
考えられた。

母親たちが愛国婦人会というの  
をやっていて、紫のたすきを  
やって、愛国婦人会というの  
が毎月8日にある、オルガンで  
「はるかぜそよ吹く空をみれば」  
そういう音楽を歌っているのを、  
「いいな」と聞いていました。  
ひどいものになると、こういう  
歌があったんですよ。「生きて  
帰ると思うなよ、白木の箱が  
とどいたら、お前の母はほめ  
てやる」というもので、なんか、  
わが子を送る朝の駅というよ  
うな、断片的にしか、今思うと  
ずいぶんひどい歌と思うので  
すが、「生きて帰ると思うな、  
白木の箱がとどいたらほめて  
やる」。

もちろんそんなことはないで  
しょう。私

の姉の婿がなくなったとき、父と母がかけつけ、私もかけつけ、2歳半の甥の子守りを姉の春子がしていたのですが、春子が泣く、稔という甥がわからない。だから「泣くな、泣くな」と、目から指を一本一本はなしてやる。そしたらイソノという姉が、おじちゃんがきたからもう泣くまいね、と涙をこらえて笑顔をつくった、みんなのために。そういう場面がありました。愛国婦人会というのはひどい集会だったのだなと。

細原というところには、私の宮本家、となり山田家、一括しておじさんもおばさんも8人主婦がいるわけです。1人は正木さんが小学校の先生だから、指揮者で、夕飯たべてから愛国婦人会という集会がある。私の母も先頭で、二番目が山田さんだったか、光永さんだったかわかりませんが、とにかく諏訪キヌさんというのが一番最後、6人ぐらいしかいない。それが「集合」といえば集まる、右向け右、番号123456、偶数の人が前へでる。2列ができる。3組しかないが、それが分列行進をする。

## 10. 平和憲法

ところが今のように新憲法ができて、戦争は放棄する、基本的人権を守る、婦人参政権というのができるわけです。新しい教科書に戦争放棄というのがある。こういう大きな釜があり、このなかへ戦車や大砲を放り込んで、鉄道がでてきたり、外国航路の旅客船がでてくるような絵だったと思います。日本の科学者たちは素晴らしい能力をもっているわけですからね、こういう絵がありました。

みなさんもご存知のように昭和25年に講和条約があり、吉田茂がいて、日米安保条約も結ばれた。29年に安保反対というのを学生たちがやりました。私もやりまし

た。しかし今は学生がデモするというのもない。日本とアメリカが戦争したことも知らない、どっちが勝ったんですか、というようなことを言っている。まあ、どうなんだろうかと思います。

平和が大切。人間の愛が尊い、命の大切さ、そういうことを私たちは広めていかなければいけない。じゃどうすればいいのか、と考える。てっとりばやいのがマスコミを利用することだと思います。「鐘のなる丘」、「君の名は」、映画では「長崎の鐘」「はだしのゲン」、詩の朗読、「原爆の詩」というのを吉永小百合さんが毎年朗読しています。原爆資料館があり、佐々木禎子さんという少女が、千羽鶴を折れば原爆病がなおるというので、一所懸命に千羽鶴を折ってなくなったそうです。

大津島には回天の記念館があります。九州の知覧には特攻隊の基地があります。本郷からも永久要少尉というのが知覧から特攻隊に行っています。私たちも2回知覧をたずねました。私たちはどうやって平和の尊さとか、原爆の恐ろしさを子供たちに教えたらいいいのかを一所懸命考える。あまり学校でこういうことをやると変な目でみるひとがいる。私ははじめ昭和35年に秋中中学校へいきました。

時の校長が、お前は東京の様子をよく知っているから、PTA総会のときに話をせよ、といました。立川基地に反対した砂川闘争というのがあり、宮崎伝右衛門さんが農民と一緒に反対運動をして杭を打たせない。お昼安みになってデモ隊もやすむ、そのとき昼飯を食べる、そしたらおばちゃんたちが、「お前たちが食べているお米は誰がつくったと思うか」と執行部の人たちに怒鳴る。日本人同士がどなっているとき、アメリカの飛行機が上を我がもの顔で飛



ぶ、そういう状況をみました、と PTA のときに話しました。そしたら、PTA の人は、今日はいいお話しだったと私にしてくれました。ところがあとで、郵便局長やら駐在所のおまわりさんたちが、今度きた若い先生は共産党のようだという。反対闘争をするとすぐ共産党という。共産党が何かをしらないひとたちが共産党という、おかしいムードがありました。岩国にはありませんけれど。そういうことがありました。

最後になりますが、普通に私たちがこうしている生活が一番尊い、一番大切なのだということ、この前の大震災で皆さんが経験して、双葉町とか、あそこで被災された小中学生や大人が、普通の生活が一番平和で安心、普通に生活することが一番尊いことだ、津波がきたり、放射能がやってくると、とんでもないことになる。私たちがこうして普通に生活しているのが一番大切なのだというふうに、被災者の子供たちが話をしていました。そしてボランティアで沢山の人が応援にきました。卓球の福原愛さんがバス 3 台ぐらいカンパンとか医療品とかを積んでいかれました。ボランティアの方々が食糧とかを支援するのを、地元の人々は整然と列を守って順番を待って受けとっておられました。これは外国の人がすごく感動したらしい。あっちのほうでデモをやっていますが、あっちだったら奪い合いして、力づくで強い者がとって逃げるんじゃないか。日本人は整然と秩序を守って永久平和をまもりたい気持ちがある。こういう日本人を誤った方向へ引っ張ってはいけない。日本人の教育の力はすごいものだと、私は思います。

### 11. 二度と戦争してはいけない

私たちはどうしたらこの平和で平穩無事な私たちの生活を守っていけるのだろ

うか。そのうち選挙が 7 月にあります。なんか幸福実現党とかいうのを聞いたら、憲法を改正して軍隊をつくるというようなことを言っている。どんでもないことだと思うんです。一旦そういうものと作ると、巧みに宣伝されるのです。私たちは戦前にならされた代表的な子供であったと思います。

たとえば私が小学校 2 年生のとき、先生たちが私たちに紙芝居をみせてくださった。その紙芝居のなかは、「さるかにかっせん」みたいのものもあるけれど、ある紙芝居にこういうのがありました。小学校の 3・4 年生の男の子と、学校にあがらない妹が雲をみていた。はじめはウサギがきた、今度はやぎがきた、といていた。そのうち、お父さんがきた、馬に乗ったお父さんが銃をかついで、空を渡って来る。はじめは下でみていたのが、二階の窓へ行って、「お父さん、お父さん」と。近所のおばちゃんたちが、あの子たちはお父さんといっているとそっちをみる。そしたら軍馬に乗って銃をもっていく写真が流れる。たくみに私たちにそういうふうに戦争へ戦争へとかりたてる。

3 年生の教科書のなかに「軍犬利根」というのがあった。小学生の女の子が利根というシェパードを飼っていたのですね。やがてそのシェパードが成長するにつれて立派な成犬になる。近所の人々がよけて通るようになる。そしたらそのシェパードに召集がかかって、軍用犬に出せということになる。自分の愛犬が軍用犬にしたてられる。利根川のそばで生まれたから「利根」と名づけた。軍犬利根が敵の弾丸のなかをくぐりぬけて伝令をして手紙を味方にとどける。途中で弾丸にあたって、手紙を届けた挙句なくなった。しかし「利根」が伝えた

情報で味方は大作戦をたてることができた。そこで「利根」が甲号功賞というのをもらった。甲号は緑、乙号は赤、丙号は黄色だったと思う。そういうのを教科書にのせて、私達、子供たち、女の子もそういう風に教育された。

昔は出征兵士の家は札をかけた。女の子しかいない家は出征兵士の家になれない。だから従軍看護婦になれば、兵隊と同じだということで、家族が世間に顔向けができる、世間のなかで堂々と生きていける、そういうことで、従軍看護婦として満洲とか南方へ行って、悲惨な生活を送られた人がいっぱいいた。証言記録のなかに、広島の人とか山口の人とか、今 80 歳から 90 歳の従軍看護婦たちが、いっぱい戦争の記録を書いておられます。そういうふうになんか女の子でも従軍看護婦になる、女の子でも兵器工場で働くとか、姉たちもここへ日の丸をつけてやったわけです。

いったん戦争になると、巧みに戦争に駆り立てる。戦争に反対するようなムードはことごとく攻撃される。だからこの会でも、一人一人が政策を持たなければいけない。上からいわれりゃそれを守るとかいうのばかりじゃいけない。天下の大勢にしたがっていきさえすればその方が安全だというふうな。

その一例。私の兄に次男で茂というのがありますが、次男だから義勇軍に行くと担任の先生から毎日説得された。しかし父親が反対で、満洲に行くのはいけん、細原で百姓せよ、というものですから、「今日行ったらまた学校で叱られるですよ」と言いながら茂が学校へ行きよったのを覚えています。その茂を指導した先生は南河内の大地主、宇野順式という人で、義勇軍にいけ、

という。戦争が終わって日教組ができれば、すぐ宇野順式は日教組にはいる。今度はストライキをする。なにか上の人のいうことを聞いておきさえすれば身の安全が守られるというようなことです。

だからこの会でも、一人ひとりが政策をもたなきゃだめだ、上のものが言やあそれについて流れる、天下の大勢について流れさえすりゃいい、というようなことじゃいけないのよ、ということはこの会では企画されたんだと思う。しかしいいこと、とくに憲法 9 条は守らねばならない。平和が大切なんだ、そういうことはひろめていかねばならない。これをどういうふうに広めたらいいのか。

聖路加国際病院理事長の日野原重明先生はいま 102 歳ですが、「101 歳の金言」という本のなかで、「戦争をやっちゃいけない、原爆をつくってはいけない、原発は廃止すべきだ」ということを訴えておられる。けさの NHK のニュースによると、パキスタンのイスラム教では女性の教育はしないが、それではいけないということで、マララさんという 16 歳の女性が女性の教育をやらなきゃと言っていた。そのためイスラムの仲間から銃でうたれた。幸い助かり、国連で演説して、今日の日は自分のためにあるのではない、自分たち仲間のためにあるのだとって、女性の教育を広めねばいけないと言っておられます。国連では 7 月 12 日をマララ・デーにしようとしています。

だから私たちも、このグループで考えたり話したりしたことを、皆さんに広めていかなきゃいけない。そのことをいろいろ話し合っていけたらな、と思っています。以上で私の話を終わらせていただきます。